



▲古民家には出来る限り元のまま、改築しないで住むのがモーアさん流の暮らし方。「古い家には誰でも住めるものではありません。それだけに、歴史文化を守る責任があると思っています」。

■モーアさんが、日本に興味を持ったきっかけは何ですか？

私はアメリカの中でも歴史の古い、ボストンで生まれ育ちました。住んでいた家も古く、また先祖が中国との貿易の仕事をしていたこともあって、子どもの頃、アジアから持ち帰った品々がたくさんありました。それが、大人になってから関心を持つ土台になったのかもしれない。その後、大学で日本語を勉強し、26年前に文部省の「英語指導主事助手」として来日しました。

■日本の古民家を住まいとして選べたのも、歴史ある環境の中で暮らしたいという思いがあったからですか？

そうですね。ただ古いから良いのではなく、古いものを大切にしたいという思いがあります。だから周りの町並みや環境も大事です。ここは裏には日野川が流れ、周りには田んぼに囲まれていますし、町並みとして残っています。もしこの家が都会の真ん中にあると、住んでいなかったと思いますね。

■同じ日本人でも、昔からの古い町というのなかなか入りにくい場所だと思うのですが、モーアさんはそのへんのご苦労はありませんでしたか？

世話をしてくれた古民家専門の不動産業者の方が、トラブルに遭わないように一生懸命事前の町内の挨拶回りなどをしてくださったんです。そのため、家の代金を払ってから実際に引っ越しまでかなり待たされたのですが、

今、この人へ Interview

日野まちなみ保全会 事務局長 **モーア オースティン**さん

より多くの人に、日本の伝統的な暮らしの素晴らしさを知ってもらいたいですね。

●プロフィール

アメリカの北東部、ボストン郊外の築200年の旧家に生まれ育つ。大学生のとき、日本人留学生がいたことで日本語を勉強。1984年、文部省の英語指導主事助手として来日し、山口県に赴任。近代日本のはじめた場所で、日本の伝統的な建物や町並みに親しむようになる。その後、東京勤務などを経て滋賀へ。日野で念願の古民家を購入し、日本の伝統的な暮らしを実践する傍ら、日野まちなみ保全会事務局長としてまちおこしに役買っている。全国市町村国際文化研修所勤務。

町内の人が本当に私を歓迎してくださって、今も良い付き合いをさせてもらっています。お祭りや地藏盆、役場関係の会議など毎週のように行事がありますが、皆さん親切です。逆に日本人の方が、常識は分かっているだろうと何も教えてもらえず、苦労するかも知れませんね。

■日野のまちなみ保全会の活動について教えてください。

日野に住み始めて半年ぐらいたった頃、町内の人から誘われて入会しました。当時は「日野の町並みと景観を考える会」という名前前で活動していました。2年ほど参加する中で、活動といっても名前の通り、考えることが多くて目に見える活動がアメリカ人の私からすると足りないなあと、思いました。そうすると、それまで役場の中に置いていた会の事務局をNPOにする前提で外に持ち出そうという話があったときと同時に、事務局の方から「事務局長になってくれませんか」と頼まれてしまいました。自分にはとても無理だと思ったのですが、考えた末に引き受けることにして、会員の方と相談の上、会の名前を「日野まちなみ保全会」に変更したんです。

■事務局長になられてから、どんな取り組みをされましたか？

実は、日野町民の方々はほとんど、この会のことを知らなかったんです。そこで、会の活動を知ってもらおうと、空き家を借りて落語の寄席を開催しました。すると、会場で3人の方が入会してくれました。また、講演会も開催しました。京都の古民家専門の

不動産業者の方に来てもらって、実際に古民家を人に売ったり貸したりした事例を話してもらいました。日野にはたくさん空き家になっている古民家がありますが、家主さんは、知らない人に貸したり売ったりするのが不安で、どうかしないといけないと思っているけれど、なかなか手を打てずにいるんです。そこで、古民家に住みたいと申し出る人はどういう人か、どんな手入れをすれば借りてもらえるか、という内容が具体的に分かるような講演を行ったんです。その他研修旅行も実施しました。世界遺産に登録された石見銀山を見学に行って、大森町で修復された古民家に泊まり、活動者の事例を聞かせてもらいました。また先日、日野町を訪れる観光客のよく通るルートの手端の草抜きをしたりゴミ拾いを始めました。

■今後どのような展望をもっておられますか？

最終的には、今空き家になっている古民家を借りてもらったり買ってもらったりして、そこで事業をやるという形につなげていきたいと思っています。日野町では、今一般の家庭で宿泊客を受け入れる「民泊」事業に取り組んでいて、成功を取っています。私としては、ぜひ日野商人の古民家に宿泊して、その歴史文化を体感してほしいですね。近江八幡、五個荘のそれぞれの近江商人の町並みめぐりをして、日野で一泊してもらおうという観光コースが出来たらいいなと思っています。より多くの人に、日本の伝統的な暮らしの素晴らしさを知ってもらいたいですね。



▲もともとは日野近江商人の分家だったモーアさんの住まい。家の造りや暮らしの知恵には、驚かされることが多いという。